

問1 弥生時代に中国や朝鮮半島から伝わった鉄の利用について、当時の社会に与えた影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 奈良公立入試 類似）

1. 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。
2. 土偶の表面を細かく削り出すための彫刻用具として、全国で広く普及した。
3. ナウマンゾウなどの大型の獣を捕らえるための、強力な打製石器の材料となった。
4. 須恵器と呼ばれる硬い土器を焼くために、窯の温度を上げる燃料として利用された。

問2 弥生時代の文化を象徴する遺物である「銅鐸」について、その使用目的や出土傾向を正しく説明しているものはどれか。（2024年 京都公立入試 類似）

1. 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。
2. 実際の戦いや狩猟で使用するための実戦的な武器として、東日本を中心に広く普及した。
3. 縄文時代から続く伝統的な風習において、死者を埋葬する際に手足に装着する装身具として使われた。
4. 最新の農耕技術を伝えるための道具として、兵庫県や島根県などの沿岸部のみで限定的に使用された。

問3 弥生時代の稲作の普及に伴って変化した人々の生活や道具について述べたものとして、正しいものはどれか。（2023年 佐賀公立入試 類似）

1. 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。
2. 人々は獲物を求めて移動生活を続け、土器は表面に縄目の文様がある厚手で大まかな作りのものが主流となった。
3. 稲作を管理するために、強力な権力を持つ支配者が各地に巨大な前方後円墳を築かせた。
4. 金属器はまだ伝わっていなかったため、すべて木製の農具と黒曜石の打製石器のみで耕作が行われた。

問4 「魏志倭人伝」に記されている、3世紀頃の日本（倭）の社会や政治の様子に関する説明として、当時の状況を正しく述べているものを選びなさい。（2025年 長野公立入試 類似）

1. 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった
2. 仏教が伝来した直後であり、各地で巨大な寺院の建設が始まっていた
3. 律令制度が導入され、戸籍に基づいて全ての人々に口分田が割り当てられていた
4. 武士団が結成され、各地の荘園を管理するために地頭が派遣されていた

問5 弥生時代に造られた、掘立柱によって床を高い位置に設けた建築物の特徴と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 佐賀公立入試 類似）

1. 収穫した稲を貯蔵するために造られ、湿気を防ぎ、ネズミなどの害獣の侵入を防ぐ工夫が施された。
2. 地面を円形や方形に掘り下げ、その上に屋根をかけた人々の住居として、防寒性を高める工夫がなされた。
3. 大陸から伝わった仏教の儀式を行うための施設として、屋根に瓦をふき、床に石を敷き詰めて造られた。
4. 貴族が政治や生活を行うための住居として、池を中心とした広い庭園に面して複数の建物が廊下で結ばれた。

問6 江戸時代に志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印や、3世紀の歴史書に記された卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かったという記述は、当時の日本と中国のどのような関係を示していますか。（2021年 茨城県公立入試 類似）

1. 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係
2. 日本が中国の王朝に対して軍事的な圧力をかけ、金印や称号を無理やり奪い取った関係
3. 中国の皇帝が日本の優れた統治体制に学び、日本の王に中国の政治顧問を依頼した関係
4. 日本と中国が対等な立場での自由貿易を約束し、称号の交換を経済的な儀礼とした関係

問7 朝鮮半島から稲作が伝わった弥生時代の生活様式について述べた文章のうち、収穫した稲の保管方法に関する説明として正しいものはどれですか。（2023年 茨城県公立入試 類似）

1. 地面を掘り下げて床を作った竪穴住居の中に保管した。
2. 湿気を防ぎネズミなどの害を避けるために作られた高床倉庫に納めた。
3. 大きな石を組み合わせで作った石舞台古墳の中に保管した。
4. 獲った獲物を燻製にするために、洞窟の奥深くに納めた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。	弥生時代には、大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝来しました。鉄は硬くて鋭利な性質を持つため、木製農具の先に取り付けて土を掘り返しやすくしたり、木工具や武器として利用されたりしました。これにより、石器を使っていた時代に比べて稲作などの作業効率が劇的に改善されました。なお、青銅器は主に祭祀（お祭り）や儀式のための道具として使い分けられました。
問2	答え 1 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。	青銅器はもともと大陸では武器や工具として使われていたが、日本に伝わると祭祀用の道具（祭器）として大型化・薄肉化した。銅鐸はその代表例であり、出土数の統計においても兵庫県、島根県、徳島県に次いで、滋賀県や和歌山県といった近畿圏で多く見つかったことが特徴である。
問3	答え 1 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。	稲作の定着により、食料を貯蔵するための高床倉庫が造られるようになりました。また、石包丁による「穂首刈り」が行われ、木製農具や、大陸から伝わった金属器（鉄器・青銅器）も併用されるようになりました。縄目の文様の土器は縄文時代、前方後円墳は古墳時代の特徴です。
問4	答え 1 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった	『魏志倭人伝』の記述からは、当時の倭には「大人」や「下戸」と呼ばれる明確な身分階級が存在し、租税（税金）の徴収や市場での取引が行われていたことが分かります。これは、単なる集落の集まりではなく、ある程度組織化された国家としての仕組みが整い始めていたことを示しています。
問5	答え 1 収穫した稲を貯蔵するために造られ、湿気を防ぎ、ネズミなどの害獣の侵入を防ぐ工夫が施された。	弥生時代に稲作が普及すると、収穫した稲を長期間保存する必要が生じました。高床（式）倉庫は、地面からの湿気が直接伝わって米が腐敗するのを防ぐために床を高く設計しています。また、梯子（はしご）を使って出入りする構造になっており、柱の上部には「ネズミ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、貯蔵した食料を害獣から守る工夫がなされていました。
問6	答え 1 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めらう関係	1世紀には奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かり、3世紀には邪馬台国の卑弥呼が魏から「親魏倭王」の称号と金印などを授かりました。これらは、中国の皇帝から「位」を認めてもらうことで、国内の他の勢力に対して自らの権威を誇示しようとした外交の形を証明しています。
問7	答え 2 湿気を防ぎネズミなどの害を避けるために作られた高床倉庫に納めた。	稲作が普及すると、収穫した食料を長期保存する必要が生じました。地面から床を高く浮かせることで通気性を良くし、湿気による腐敗を防ぐとともに、ネズミなどの小動物の侵入を防ぐ「ねずみ返し」などの工夫がなされました。

問1 江戸時代に志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印や、3世紀の歴史書に記された卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かったという記述は、当時の日本と中国のどのような関係を示していますか。（2021年 茨城県公立入試 類似）

1. 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係
2. 日本が中国の王朝に対して軍事的な圧力をかけ、金印や称号を無理やり奪い取った関係
3. 中国の皇帝が日本の優れた統治体制に学び、日本の王に中国の政治顧問を依頼した関係
4. 日本と中国が対等な立場での自由貿易を約束し、称号の交換を経済的な儀礼とした関係

問2 弥生時代に大陸から稲作が伝わると、収穫のための道具として磨製石器の一種が広く使われるようになりました。中央に2つの小さな穴が開いた半月形の形状をしており、稲の穂先のみを摘み取るために使用されたこの道具の名称を選びなさい。（2024年 秋田県公立入試 類似）

1. 石包丁
2. 鉄鎌
3. 磨製石斧
4. 尖頭器

問3 弥生時代の社会の変化について述べた文として、当時の集落のあり方や道具の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2024年 沖縄公立入試 類似）

1. 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。
2. 縄目の文様がある厚手で黒褐色の土器を使用し、主に狩りや採集を行って生活した。
3. 仏教の伝来とともに巨大な前方後円墳が造られ、集落の形が大きく変化した。
4. 堅穴住居が並ぶ大規模な集落が形成されたが、外敵を防ぐための堀などは作られなかった。

問4 弥生時代に作られた青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面に流水などの幾何学模様が施されている祭祀の道具を何というか。（2026年 新潟公立入試 類似）

1. 銅鐸
2. 銅鏡
3. 銅剣
4. 石包丁

問5 弥生時代に大陸から日本列島へ伝わった金属器の特色について、銅鐸の性質をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）

1. 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった
2. 青銅器は、鉄器よりも硬く鋭いため、主に開墾用の農具や実戦用の武器として普及した
3. 銅鐸に代表される青銅器は、古墳時代になってから初めて製作され、巨大な墓に副葬された
4. 銅鐸は文字を記録するための道具として開発され、当時の律令制度を庶民に伝えるために使われた

問6 鳥取県の青谷上寺地遺跡などの出土品をまとめた資料では、木製品や骨角器とともに、石器、金属器、そしてこの時代の特徴的な土器が並んで示されています。これらの道具が併用されていた弥生時代の土器に見られる、縄文土器と比較した際の外見上の特徴として、最も適切なものはどれか。（2016年 鳥取公立入試 類似）

1. 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である
2. 表面に縄目のような力強い文様がつけられ、全体的に厚手である
3. 青灰色をしており、非常に硬く焼かれた朝鮮半島由来の技術で作られている
4. 仏教の儀式に用いるために、表面に金色の装飾や仏像が描かれている

問7 当時の日本（倭）では多くの小国が分立して争いが続いていたことが中国の歴史書に記されています。このような状況下で、邪馬台国の卑弥呼が魏に使節を送り、皇帝との外交関係を築いた主な目的は何ですか。（2019年 広島公立入試 類似）

1. 魏の皇帝から倭王としての国際的な承認を得ることで、国内の他勢力に対して優位に立ち、支配を安定させるため
2. 大陸で広く信仰されていた仏教を日本に導入することで、宗教の力によって国内の戦乱を鎮めるため
3. 魏が定めていた律令などの法律や官僚制度を取り入れ、天皇を中心とする中央集権国家の仕組みを整えるため
4. 魏の進んだ鉄器製造技術を独占することで軍力を高め、武力によって一気に日本列島を統一するため

問8 福岡県の志賀島で発見された、金で作られた「漢委奴国王」の印（金印）が示している歴史的事実として適切なものを選んでください。（2021年 神奈川県公立入試 類似）

1. 倭の奴国の王が中国の漢（後漢）へ使いを送り、皇帝から王の地位を認められた。
2. 邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から親魏倭王の称号と銅鏡を授けられた。
3. 聖徳太子が小野妹子を隋に派遣し、中国と対等な外交関係を築こうとした。
4. 日本が中国の進んだ制度を取り入れるために、多くの留学生を伴う遣唐使を派遣した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めらう関係	1世紀には奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かり、3世紀には邪馬台国の卑弥呼が魏から「親魏倭王」の称号と金印などを授かりました。これらは、中国の皇帝から「位」を認めてもらうことで、国内の他の勢力に対して自らの権威を誇示しようとした外交の形を証明しています。
問2	答え 1 石包丁	弥生時代に稲作が本格化する中で、収穫用具として石包丁が誕生しました。石を磨いて作られた磨製石器で、穴に紐を通して指に固定し、手のひらで包むようにして稲の穂を一つひとつ摘み取る「穂首刈り（ほくびがり）」が行われました。のちの時代に鉄製の鎌が普及するまでは、この石包丁が収穫の主役でした。
問3	答え 1 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。	弥生時代は、稲作の普及に伴い金属器（鉄器・青銅器）や、縄文土器に比べて薄くて硬い弥生土器が使われ始めました。社会構造の変化により、争いから身を守るための環濠集落が築かれたのがこの時期の大きな特徴です。縄目の文様がある土器や、防御施設のない大規模集落（三内丸山遺跡など）は主に縄文時代の特徴です。
問4	答え 1 銅鐸	弥生時代には大陸から金属器の技術が伝わり、青銅器と鉄器がほぼ同時に使われ始めました。青銅器のうち、釣鐘の形をした銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、豊作を祈るための祭りの道具として用いられたと考えられています。
問5	答え 1 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった	弥生時代には、青銅器と鉄器がほぼ同時に大陸から伝わりました。実用的な道具として、鋭利な刃物が必要な武器や工具には「鉄器」が主に使われた一方で、光沢があり希少な「青銅器」は、銅鐸や銅鏡、銅剣（儀礼用）のように、祭礼や集落の権威を示すための道具として使い分けられました。銅鐸は特に稲作の豊穰を願う集落の共同祭祀に深く関わっていました。
問6	答え 1 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である	弥生土器は、装飾が豊かだった縄文土器と比較して、表面に細目の文様が施されるなどデザインが簡素化され、調理や貯蔵に適した薄くて機能的な形状へと変化しました。青谷上寺地遺跡のように、金属器や木製品など多様な道具が登場した背景には、稲作を中心とした計画的な生産活動への移行があります。
問7	答え 1 魏の皇帝から倭王としての国際的な承認を得ることで、国内の他勢力に対して優位に立ち、支配を安定させるため	弥生時代の日本列島は、多くの小国が争う「倭国大乱」と呼ばれる混乱期にありました。卑弥呼は、大陸の強国である魏から公式に「倭の王」として認められることで、自らの地位の正当性を高めようとした。授かった金印や銅鏡を国内の有力者に分け与えることは、自らの権威を可視化し、他の小国を従わせるための高度な外交手段でした。なお、仏教の伝来や律令の導入は後の飛鳥時代以降の出来事です。
問8	答え 1 倭の奴国の王が中国の漢（後漢）へ使いを送り、皇帝から王の地位を認められた。	中国の歴史書『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が光武帝に使いを送り、印綬を授かったという記録があります。志賀島で見つかった金印はこの記述を裏付けるものであり、当時の日本の小国の王が、中国の皇帝に貢ぎ物を送ることで、自分の支配権を公認してもらおうとした国際関係を示しています。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から青銅器と鉄器がほぼ同時に伝来しました。青銅器は、その独特の光沢や希少性から、実用的な道具というよりも、村の祭礼や儀式で用いられる祭具としての性格を強く持っていました。代表的なものに銅鐸、銅剣、銅鏡などがあります。
問2	答え 1 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため	稲作が始まると、安定して米を生産するために、日当たりの良い土地や灌漑に必要な水の確保が死活問題となりました。これらをめぐって集落間で利害が対立したことが、組織的な武力衝突へと発展しました。また、収穫した米を蓄積できるようになったことで、貧富の差や権力の差が生じたことも争いの一因です。
問3	答え 1 親魏倭王の称号と、金印や百枚の銅鏡	卑弥呼は239年に中国の魏へ使節を派遣しました。当時の中国は魏・呉・蜀が並立する三国時代であり、卑弥呼は北方の魏と結ぶことで外交的な後ろ盾を得ようとした。魏の皇帝はこれに応え、「親魏倭王」の称号とともに、その権威を象徴する金印や、当時の日本列島では希少だった銅鏡などを授けました。
問4	答え 1 作物の豊かな実りを祈るなどの祭りの道具として用いられた	銅鐸は、弥生時代を代表する青銅器の一つです。当初はつり下げて鳴らす楽器として使われていたと考えられていますが、次第に大型化し、豊作を祈るための祭礼や儀礼において重要な役割を果たす「祭祀具（さいしぐ）」として用いられるようになりました。表面に刻まれた鹿や農耕の様子などの文様は、当時の生活や信仰を知るための貴重な史料となっています。
問5	答え 1 豊作を祈る祭りなどのために、青銅器である銅鐸が使われた	稲作が始まり、金属器が使用され始めたのは弥生時代です。この時代には、実用的な鉄器とともに、祭祀用として銅鐸などの青銅器が作られました。土偶は狩猟採集中心の縄文時代、埴輪は古墳時代、富本銭は飛鳥時代のもです。
問6	答え 1 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった	『魏志倭人伝』の記述からは、当時の倭には「大人」や「下戸」と呼ばれる明確な身分階級が存在し、租税（税金）の徴収や市場での取引が行われていたことが分かります。これは、単なる集落の集まりではなく、ある程度組織化された国家としての仕組みが整い始めていたことを示しています。
問7	答え 1 収穫したコメを富として蓄えることが可能になったため、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれた。	稲作によって食料の安定的な確保が可能になりましたが、同時に収穫したコメを貯蔵できるようになったことで、それが「富」としての価値を持つようになりました。これにより、多くのコメを持つ者と持たざる者との間で貧富の差が生まれ、さらに水や土地を巡るムラ同士の争いが発生し、社会の階層化が進む要因となりました。
問8	答え 1 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。	縄文時代の狩猟・採集中心の生活から、弥生時代の稲作中心の生活へ移行すると、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐる貧富の差や集落間の対立が生まれました。こうした紛争（戦争）の証拠として、防御用設備を備えた環濠集落や、矢を射込まれた人骨などが各地で発見されています。

問1 5世紀、倭の五王が中国の南朝である「宋」へたびたび使者を送った目的として、当時の東アジア情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。（2016年 岐阜公立入試 類似）

1. 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。
2. 遣隋使の派遣に先立ち、中国の進んだ律令制度や仏教を日本に導入する許可を得るため。
3. 邪馬台国内での争いを鎮めるために、中国の強力な軍隊を日本国内へ招き入れるため。
4. 福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印を、宋の皇帝に返還するため。

問2 邪馬台国の女王である卑弥呼は、239年に中国の魏へ使節を送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かりました。卑弥呼がこのように中国の王朝と外交関係を結んだ主な政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 徳島公立入試 類似）

1. 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため
2. 魏で施行されていた律令制度を学び、日本で最初の本格的な法治国家を建設するため
3. 朝鮮半島南部にある任那の日本府を維持するために、魏へ軍事支援を要請するため
4. 魏から金銀などの貴金属を輸入し、国内で独自貨幣の発行を開始するため

問3 日本の「奴国」が中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀前後の、日本と世界の情勢について述べた文として、背景や関連性が正しいものはどれですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）

1. 奴国の王は、中国の皇帝との外交関係を築くことで自国の地位を高めようとし、同じ頃の世界ではローマ帝国の繁栄とともにキリスト教が成立し始めていた。
2. 奴国の王は、インダス文明との交易を有利に進めるために後漢へ使者を送り、同時期に中国では仏教が日本へ伝来した。
3. 奴国の王は、イスラム教の影響を受けた後漢の制度を取り入れるために金印を求め、パレスチナでは十字軍の遠征が始まっていた。
4. 奴国の王は、織田信長が行った楽市・楽座のような自由貿易を求めて後漢と交渉し、同時期のヨーロッパでは大航海時代が幕を開けていた。

問4 弥生時代に大陸から日本列島へ伝わった金属器の特色について、銅鐸の性質をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）

1. 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった
2. 青銅器は、鉄器よりも硬く鋭いため、主に開墾用の農具や実戦用の武器として普及した
3. 銅鐸に代表される青銅器は、古墳時代になってから初めて製作され、巨大な墓に副葬された
4. 銅鐸は文字を記録するための道具として開発され、当時の律令制度を庶民に伝えるために使われた

問5 弥生時代に使用された土器の一般的な特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2026年 北海道公立入試 類似）

1. 表面に縄目の文様が全体に施されており、厚手で黒褐色をしている。
2. 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。
3. 呪術的な目的から、表面に激しい隆起や複雑な装飾が施されている。
4. ろくろを使用せずに低温で焼かれたため、形が歪んでおり非常に厚くて脆い。

問6 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。

（2022年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。
2. 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的な統一国家が誕生した。
3. 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。
4. 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地に大規模な古墳が作られた。

問7 弥生時代の社会状況を示す事例として、香川県にある紫雲山遺跡のように、瀬戸内海を一望できる高い山の上に作られた「高地性集落」があります。卑弥呼が邪馬台国を治めていた時期を含め、このような特殊な場所に集落が作られた理由として、当時の社会背景を説明したものを選びなさい。（2021年 香川公立入試 類似）

1. 大陸から伝来した仏教を修行するための山岳寺院を建てる必要があったため。
2. 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。
3. 遣隋使や遣唐使として派遣される人々を、高い場所から見送る儀式を行うため。
4. 白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅の侵攻に備えて防衛拠点としての城を築いたため。

問8 福岡県の志賀島で発見された金印には、正方形の印面に「漢委奴国王」の五文字が刻まれており、つまみの部分は蛇を模した形状（蛇鈕）となっています。この金印を奴国の王が後漢の皇帝から授かった政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 富山公立入試 類似）

1. 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺勢力を抑えようとしたため
2. 大陸から仏教を公式に導入するための許可を得て、国内の宗教的な統一を図ろうとしたため
3. 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を得るための事前交渉として、大陸との友好関係を築くため
4. モンゴル民族の侵攻に対抗するため、大陸の軍隊に日本列島までの援軍を要請したため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。	5世紀の倭（ヤマト政権）は、国内の統一を進めるとともに、鉄資源の確保などを求めて朝鮮半島への進出を強めていました。倭の五王は、朝鮮半島における百濟や加耶（加羅）に対する軍事的な影響力や外交的な地位を中国の皇帝に認めてもらう（官爵を得る）ことで、他国や国内の諸勢力に対して自らの正当性を主張しようとしていました。
問2	答え 1 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため	邪馬台国は、南に位置する狗奴国と激しく対立していました。卑弥呼は当時、中国で強大だった魏の皇帝から公式に「倭の王」として認められることで、その権威を背景に国内の統治を固め、対立勢力に対して有利な立場を得ようとしたと考えられています。これは当時の東アジアにおける国際秩序を利用した外交戦略でした。
問3	答え 1 奴国の王は、中国の皇帝との外交関係を築くことで自国の地位を高めようとし、同じ頃の世界ではローマ帝国の繁栄とともにキリスト教が成立し始めていた。	当時の小国の王が中国（後漢）の皇帝に使者を送り金印を授かったのは、中国の権威を背景に周辺諸国に対して自国の地位を有利にする目的がありました。この紀元1世紀という時期は、西洋においてはローマ帝国の統一とイエスによるキリスト教の創始という、その後の世界史に大きな影響を与える出来事が重なっています。インダス文明は古代、イスラム教や十字軍、大航海時代などはより後世の出来事であり、奴国の時代背景とは一致しません。
問4	答え 1 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった	弥生時代には、青銅器と鉄器がほぼ同時に大陸から伝わりました。実用的な道具として、鋭利な刃物が必要な武器や工具には「鉄器」が主に使われた一方で、光沢があり希少な「青銅器」は、銅鐸や銅鏡、銅剣（儀礼用）のように、祭礼や集落の権威を示すための道具として使い分けられました。銅鐸は特に稲作の豊穰を願う集落の共同祭祀に深く関わっていました。
問5	答え 2 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。	弥生土器は、縄文土器に比べて高い温度で焼かれるようになったため、薄くて硬いという特徴を持ちます。縄文土器に見られるような激しい装飾や複雑な文様は少なくなり、機能性を重視したシンプルな作りが特徴です。
問6	答え 1 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。	稲作の開始は、単なる食生活の変化にとどまらず、社会構造に劇的な変化をもたらしました。収穫した米を蓄えることで余剰生産物が生まれ、それを管理・所有する層が現れたことで、貧富の差や身分の違い（階級）が生じました。その結果、小国を治める王のような強力な指導者が登場し、中国の歴史書にある「100余りの国」のような政治的なまとまりが形成される要因となりました。なお、青銅器は主に祭祀用であり、実用的な農具は鉄器が担いました。
問7	答え 2 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。	弥生時代は稲作による余剰生産物が生じたことで、富の蓄積や階級の差が生まれ、各地で土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。瀬戸内海沿岸の山頂付近にある紫雲山遺跡のような高地性集落は、敵の動きをいち早く察知し、集落を守るための軍事的な拠点としての役割を担っていました。中国の歴史書に記された「倭国大乱」も、こうした激しい社会状況を裏付けています。
問8	答え 1 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため	当時の倭（日本）は多くの小国に分かれていました。奴国のような有力な国の王は、中国の皇帝に使節を送って「臣下」となる代わりに、王としての正当性を認めてもらう（冊封を受ける）ことで、国内や周辺諸国に対する権威を強化しようとしていました。仏教の伝来や卑弥呼の登場、モンゴルの侵攻はすべて後の時代の出来事です。

問1 出土した人骨の統計において、縄文時代に比べて弥生時代は武器などによる傷を受けた割合が高いことが分かっています。こうした背景から、当時の人々が敵の侵入を防ぐために、居住域の周囲に深い堀や溝を巡らせた集落を建設しました。この防御的な構造を持つ集落を何と呼びますか。 (2024年 北海道公立入試 類似)

1. 環濠集落 2. 高床倉庫 3. 竪穴住居 4. 前方後円墳

問2 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、集落の周囲に深い濠（ほり）や土塁を巡らせた「環濠集落」の代表例として知られています。このような大規模な防衛施設を持つ集落が弥生時代に造られるようになった社会的な背景として、最も適切な説明はどれか、選びなさい。 (2020年 和歌山公立入試 類似)

1. 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐり集落間の争いが激しくなったため
2. 仏教の伝来にともない、寺院を中心とした聖域を保護する必要が生じたため
3. 狩猟や採集の効率を上げるために、獲物となる動物を追い込む囲いが必要だったため
4. 頻発する大規模な洪水や高潮から、住居や高床倉庫の浸水を防ぐ必要があったため

問3 弥生時代に稲作が広まったことで、土地や水をめぐり争いが起こるようになりました。集落を外敵からの攻撃から守るために、周囲に深い堀を掘り、木の柵を設置した集落を何と呼びますか。 (2024年 沖縄公立入試 類似)

1. 高床倉庫 2. 環濠集落 3. 石舞台古墳 4. 三内丸山遺跡

問4 古代における農具の改良について、木製農具の先に鉄の刃先を取り付けるようになった目的と、その結果として生じた変化について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 富山県公立入試 類似)

1. 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した
2. 石包丁の使用を継続しつつ、木製農具の強度を補うことで穂首刈りの効率を上げた
3. すべての農具を鉄のみで製造することで、木材資源の消費を抑え森林を保護した
4. 灌漑用水を確保するために、大規模な土木工事専用の石造りの道具を開発した

問5 紀元1世紀ごろ、日本の小国の王が、中国の皇帝に対して貢ぎ物を送る「朝貢（ちょうこう）」を行い、金印を授けられた主な理由や背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 長崎公立入試 類似)

1. 中国の皇帝から王としての地位を認めもらうことで、国内における支配の正当性を高めるため。
2. 中国の進んだ仏教文化を日本に導入するために、僧侶を派遣する正式な許可を得るため。
3. 大陸で勢力を強めていた高句麗に対抗するため、中国と軍事同盟を結ぶ必要があったため。
4. 日本国内の統一を成し遂げたことを報告し、中国への輸出関税を免除してもらうため。

問6 福岡県の志賀島で発見された金印には、正方形の印面に「漢委奴国王」の五文字が刻まれており、つまみの部分は蛇を模した形状（蛇鈕）となっています。この金印を奴国の王が後漢の皇帝から授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 富山公立入試 類似)

1. 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため
2. 大陸から仏教を公式に導入するための許可を得て、国内の宗教的な統一を図ろうとしたため
3. 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を得るための事前交渉として、大陸との友好関係を築くため
4. モンゴル民族の侵攻に対抗するため、大陸の軍隊に日本列島までの援軍を要請したため

問7 3世紀の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、当時の日本（倭）の様子が記されています。それによると、倭ではもともと男子を王としていましたが、国が乱れて互いに攻め合う状態が数年続きました。この混乱を収めるためにとられた歴史的な経緯として正しいものはどれですか。 (2020年 徳島公立入試 類似)

1. 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた
2. 中国の魏から派遣された総督が直接統治を行った
3. 狗奴国の王が武力によって全ての小国を制圧した
4. 仏教を国教として導入し、人々の信仰によって乱れを鎮めた

問8 弥生時代に現れた環濠集落は、それ以前の縄文時代の集落とは大きく異なる社会背景を持っています。このような形態の集落が全国的に出現した理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 愛知公立入試 類似)

1. 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれた結果、土地や水をめぐり集団間の争いが激化したため
2. 大陸との交易で得た貴重な青銅器や鉄器を、雨風や火災から物理的に保護する必要が生じたため
3. 大規模な洪水被害から住居を守るために、集落の周囲に巨大な排水路を設ける必要があったため
4. 渡来人から伝わった仏教の寺院を建立するにあたり、聖域と世俗の居住区を明確に区別するため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 環濠集落	集落の周りに堀（溝）を巡らせた環濠集落は、佐賀県の吉野ヶ里遺跡などに代表される弥生時代の特徴的な集落形態です。受傷人骨の増加という考古学的な事実とあわせて、当時の社会が常に争いの危険にさらされていたこと、そして集落が共同体として自衛機能を持っていたことを示しています。
問2	答え 1 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐ る集落間の争いが激しくなったため	弥生時代に大陸から本格的な水稲耕作が伝わると、収穫物の余剰を蓄える「富」が生まれ、それを奪い合う争いが始まりました。吉野ヶ里遺跡に見られる深い濠や逆茂木（さかもぎ）、物見やぐらなどの施設は、敵の侵入を防ぎ、共同体の財産や命を守るために発達した軍事・防衛的な工夫です。
問3	答え 2 環濠集落	弥生時代には、食料の備蓄や土地の所有をめぐる集落間での争いが生じました。そのため、集落の防御機能を高めるために周囲を堀や柵で囲む工夫がなされました。代表的な遺跡として、佐賀県の吉野ヶ里遺跡が有名です。
問4	答え 1 土を深く耕すことを可能にして農業生産 力を高めるため、収穫量が増大した	鉄の刃先を装着することで、従来の木製のみの農具では難しかった硬い土壌を深く掘り起こす（深耕）ことが可能になりました。これにより土壌の養分が有効に活用され、農業生産力が大幅に向上しました。石包丁から鉄鎌への変化なども含め、鉄の普及は収穫量の増大と社会の余剰生産物の蓄積に直結しました。
問5	答え 1 中国の皇帝から王としての地位を認めて もらうことで、国内における支配の正当 性を高めるため。	当時の日本（倭）は多くの小国が分立しており、各地の有力者は自らの権威を強めるために、強大な権力を持つ中国の皇帝に使節を送りました。皇帝から「王」として認められ、その証として金印や銅鏡などの貴重な品を授かることは、周辺の他の勢力に対して自らの支配力の正当性を示す大きな強みとなりました。
問6	答え 1 中国の皇帝から地位を認められること で、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑 えようとしたため	当時の倭（日本）は多くの小国に分かれていました。奴国のような有力な国の王は、中国の皇帝に使節を送って「臣下」となる代わりに、王としての正当性を認めてもらう（冊封を受ける）ことで、国内や周辺諸国に対する権威を強化しようとしていました。仏教の伝来や卑弥呼の登場、モンゴルの侵攻はすべて後の時代の出来事です。
問7	答え 1 一人の女性を王として共立し、国をまと めさせた	当時の倭（日本）では、小国同士が激しく争う「倭国大乱」と呼ばれる時期がありました。この混乱を收拾するため、複数の小国が連合し、まじないや宗教的な権威を持つ卑弥呼を女王として立てることで国内の安定を図ったことが『魏志倭人伝』に記されています。
問8	答え 1 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれ た結果、土地や水をめぐり集団間の争い が激化したため	本格的な稲作の開始は、人々に安定した食料をもたらしましたが、同時に「富の蓄積」と「貧富の差」を生み出しました。これにより、条件の良い耕作地や農業用水を独占しようとする集団同士の対立（戦争）が始まりました。自分の集落を守るために防御機能を備える必要があったことが、環濠集落が普及した最大の背景です。